

昭和音楽大学大学院(修士課程)

カリキュラム・ポリシー(CP):教育課程編成・実施の方針

■ 修士(音楽) Master of Music:音楽芸術表現専攻

ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の獲得をめざし、以下の方針に基づき教育課程を編成し、実施する。

<教育課程の編成及び内容>

CP1(高度な専門的知識・技能及び表現力の育成を図る教育課程)

音楽の各分野における高度な知識、技能及び表現力を養うため、専門分野の実践的な学びを中心とする教育課程を体系的に編成する。演奏、創作、指揮、舞台実践その他の表現活動を通して、専門性を継続的に深化できるような内容とする。

CP2(課題設定力と探究・実践力の育成を図る教育課程)

専門分野における課題を見だし、その解決に向けて探究を深める力を養うため、課題設定、分析、構想、表現の深化へと段階的に学ぶことができる教育課程を編成する。学修成果を実技、創作、研究その他の成果として総合化できるような内容とする。

CP3(音楽と芸術文化に関する広範な知識、多角的視野及び高い識見の育成を図る教育課程)

音楽と芸術文化に関する広範な知識と教養を身に付け、多角的な視野を培うため、専門分野に加えて関連分野、さらに外国語、情報リテラシー、その他の幅広い学びを取り入れた教育課程を編成する。内容については、学生の興味・関心に応じて選択できるようにする。

<教育方法と学修成果の評価>

CP1~3共通

教育内容に応じて、講義、演習、実技を適切に組み合わせた授業を実施する。特に、演習及び実技においては、少人数による教育を重視し、学生の主体的な学びを促す教育方法を取り入れる。各授業科目の学修成果は、シラバス等によりあらかじめ示した評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に評価する。修了に係る成果については、実技、創作、研究等、それぞれの成果の形態に応じて定められた基準に基づき、論理性、独創性の観点から総合的に評価する。

■ 修士(芸術) Master of Arts:音楽芸術運営専攻

ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の獲得をめざし、以下の方針に基づき教育課程を編成し、実施する。

<教育課程の編成及び内容>

CP1(高度な専門的知識・教養及び実践的能力の育成を図る教育課程)

音楽芸術の各分野における高度な知識と教養及び実践的能力を養うため、専門分野の理論的・実践的な学びを中心とする教育課程を体系的に編成する。専門分野の特性に応じて、研究と実践を往還しながら専門性を深化できるような内容にする。

CP2(研究計画立案力と研究遂行力の育成を図る教育課程)

音楽及び芸術文化に関する知識・教養を基盤として、専門的かつ学術的又は実践的な研究手法を身に付け、研究課題の設定、研究計画の立案、研究の遂行へと段階的に学びを深めることができる教育課程を編成する。修士論文又は修士研究を主軸として、学修・研究の成果を総合化するような内容にする。

CP3(音楽と芸術文化に関する広範な知識、多角的視野及び高い識見の育成を図る教育課程)

音楽と芸術文化に関する広範な知識と教養を身に付け、多角的な視野を培うため、専門分野に加えて関連分野、さらに外国語、情報リテラシー、その他の幅広い学びを取り入れた教育課程を編成する。内容については、学生の興味・関心に応じて選択できるようにする。

<教育方法と学修成果の評価>

CP1～3共通

教育内容に応じて、講義、演習、実習、実技を適切に組み合わせた授業を実施する。特に、演習、実習及び実技においては、少人数による教育を重視し、学生の主体的な学びを促す教育方法を取り入れる。各授業科目の学修成果は、シラバス等によりあらかじめ示した評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に評価する。修士論文又は修士研究については、定められた審査基準に基づき、論理性、独創性の観点から総合的に評価する。